

CAMPUS HEALTH

2018.5

55 (2)

特集：大学が行う多様な学生サポートの試み
論文集



Japan University Health Association

目 次

巻頭言

巻頭言「大学が行う多様な学生サポートのこころみ」……………	久保田稔……………	1
-------------------------------	-----------	---

特集 《大学が行う多様な学生サポートの試み》

【Ⅰ. 感染症】

大学における結核対策の現状と課題	潤間 励子……………	4
留学生の結核広域集団感染の実例と課題	中川 克……………	9
結核検診のルールと IGRA の活用について実践と課題	西村 知泰ほか……………	16

【Ⅱ. 禁煙指導・活動】

大学の喫煙対策が与える学生喫煙率への効果	眞崎 義憲ほか……………	20
喫煙に関する学生サポート	伊東 宏……………	27
禁煙推進活動とその効果について	中西 香織……………	33
大分大学における無煙環境推進活動—現状の報告と今後の課題—	工藤 欣邦……………	36

【Ⅲ. 食育・栄養指導】

将来の妊孕性確保を目指した女子大学生への食教育	藤原 智子……………	42
健康な生活習慣形成のための100円朝食	田畑 泉……………	47
栄養士養成課程の学生による食育	新澤 祥恵……………	51
心の健康教育における食育の実践	足立 由美……………	56

【Ⅳ. スポーツ選手への支援】

体育・スポーツ系学生に必要な健康サポート	大澤 功……………	61
女子学生アスリートのヘルスサポート	鯉川 なつえ……………	65

【Ⅴ. メンタルヘルス（健康診断に含めるメンタルヘルスチェック）】

「こころの健康調査」を用いた心理支援ニーズを有する学生の掘り起こしと 電話・面接によるアウトリーチ型支援の試み	山田 裕子ほか……………	70
九州大学におけるメンタルヘルス対策について—学生のメンタルチェック—	土本 利架子ほか……………	77
メンタルヘルスリテラシー教育への提言—有用なメンタルヘルス対策に向けて—	田所 重紀……………	83

【VI. LGBT】

関学レインボーウィークを通じた多様なセクシュアリティ尊重のためのソーシャルアクション	武田 丈 ……	88
島根大学における LGBT の学生に対する支援～ダイバーシティの観点から～	河野 美江 ……	94
筑波大学における LGBT 等に関する取組～基本理念と対応ガイドライン策定の経緯とねらい～	河野 禎之 ……	100

原著論文

学大学生における BMI の変動と大学生活不安の関連性について	和田 直子ほか ……	107
大学生における喫煙に関する要因について－在学中 1 年から 4 年生までの縦断的研究－	笹原 妃佐子ほか ……	113
大学生における肌状態・肌に関する悩みと生活習慣との関連	山田 玲子ほか ……	120
大学生を対象とした頭痛の実態調査	工藤 欣邦ほか ……	126
腎機能と筋肉量の相関	安田 修ほか ……	133
大学生の精神的不調のきっかけ－テキストマイニングによる分析－	長島 渉ほか ……	138
大学新入生が抱える不安への一次予防－全新入生ガイダンスにおける無記名アンケート結果から－	清水 幸登ほか ……	144
精神的健康状態と学内資源へのアクセス大阪府立大学工学域 1 年生を対象とした実態調査	加藤 ちえほか ……	150
大学入学期のストレス対処能力とストレス対処行動・精神的健康度との関連についての検討	堀田 亮ほか ……	156
一般大学生における発達障害傾向がインターネット依存傾向に与える効果	菊地 創ほか ……	162
居場所意識経験と心理的敏感さとの関連	安達 奈緒子ほか ……	168
大学生の認知的柔軟性と ASD・ADHD の特性との関連	篠田 直子ほか ……	174
大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第38報（平成27年度分集計結果）より －死亡学生実態調査についての結果と考察－	布施 泰子ほか ……	180

症例報告・報告

他機関との連携による若者向け自殺予防の取り組み	黒澤 恵ほか ……	185
テキサス大学オースチン校の学生サービス部門（Student Service Building）の視察報告 －国際連携委員会より－	山本 眞由美ほか ……	191
米国大学保健管理協会年次集会（ACHA2017）日米共同セッション報告（国際連携委員会より） －日米における大学メンタルヘルスの話題について－	山本 眞由美ほか ……	197

機関誌編集委員会からのお知らせ	203
CAMPUS HEALTH (2) 投稿規定 (投稿論文チェックリスト, 承諾確認書)	204
あとがき	209

「大学が行う多様な学生サポートのこころみ」

公益社団法人全国大学保健管理協会理事，機関誌編集委員 久保田 稔
関西学院保健館長，関西学院大学社会学部教授

今回の特集号のテーマは、「大学が行う多様な学生サポートのこころみ」である。「多様な」という文言に、キャンパスでの保健管理に関わる重要な概念が含まれている。キャンパスでは、「多様な学生」が、「多様な活動」をしている。そして、近年、大学自体が変化しつづけ、規模、学部構成、資源・予算、そして保健管理担当組織も「多様」である。そのような状況で、学生サポートも、基本的な理念をベースに、個別の対応からすべての学生を対象とした対応まで、多様なサポートがこころみられている。

機関誌編集委員会では、このテーマに沿って、6つのテーマ、すなわち、感染症（結核）、禁煙指導・活動、食育・栄養指導、スポーツ選手への支援、メンタルヘルス（健康診断に含めるメンタルヘルスチェック）、LGBT（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender）を取り上げ、各領域のベテランや先進的な取り組みを行っている方々に新しいこころみを中心に執筆をお願いした。その結果、本特集の内容は、広汎で中身の濃いものとなった。そこで、巻頭言では、各テーマごとに各論文の一部を紹介させていただくこととした。

I. 感染症（結核）

大学は、外国人留学生や結核蔓延国滞在歴のある学生など結核ハイリスク学生も構成員であり、また、学生はキャンパス外でも行動（臨床実習や教育実習、就職活動）をする。結核集団感染がおこる可能性もある。ここでは、このような事実を踏まえた健康診断について記述いただいた。潤間論文で、学生定期健康診断の胸部X線検査は、学校保健安全改正法で定められた第一学年のみの実施では、肺結核のスクリーニングとして不適切であることがわかる。中川論文では、留学生にみられた集団感染が、その背景とともにリアルに記述され、留学生の結核健康診断への提言がある。最近の話題である結核感染スクリーニング試験としてのインターフェロン γ 遊離試験については、医療系学部学生や留学生での実施経験が、その課題とともに西村論文で述べられている。

II. 禁煙指導・活動

全国の大学で、「受動喫煙防止」、「学生を習慣的喫煙者とさせない」ことを目標に、多様なサポートがこころみられている。ここでは、4大学から、その報告と課題を記述いただいた。「教育」「環境整備」「禁煙支援」（眞崎論文）の順に紹介すると、「教育・啓発」では、新入生・学部生・教職員に合わせた教育、健診やイベントなどの機会の積極的利用、講義や呼気一酸化炭素濃度測定など多様な教育手段、また、ナッジという穏やかな禁煙誘導手段（伊東論文）などが述べられている。「環境整備」では、敷地内禁煙、喫煙場所の厳格な設置管理・削減、学内でのたばこ販

売禁止などがある。「禁煙支援・卒煙」では、禁煙外来を開設し、利用者の行動変容ステージやニコチン依存度、経済的負担をふまえたきめ細やかな支援、支持療法やピアサポート（学生の取り組み）などの手法が述べられている。これらの論文から、禁煙推進や敷地内禁煙は、保健管理センターの努力と、基本方針の策定・宣言、ルールづくり、パトロールなど全学をあげての取り組みで実施に至った過程がわかる。また、効果として、学生喫煙率の低下も各論文で示された（**眞崎論文**、**中西論文**など）。敷地内禁煙を推進した**工藤の論文**には、北風（大学規程の策定や遵守）と南風（保健管理センターのサポート）の調和という的を得た表現がある。これらの論文は、各大学での禁煙推進、敷地内禁煙に有用な情報となると考える。

Ⅲ. 食育・栄養指導

学生への食育・栄養指導もその重要性が指摘され、種々のところみがなされている。**藤原論文**では、女子学生には将来の妊孕性確保を目指す食育が必要と述べられている。ダイエットや朝食の欠食は、月経周期の異常など生殖機能に悪影響を及ぼし、また、月経痛を伴う器質的疾患発症の誘因になることを指摘している。この朝食の欠食に対して、**田畑論文**では、「100円朝食の提供サービス」という実践活動が紹介され、健康管理意識向上という意義が指摘されている。**新澤論文**では、食物栄養学科の学生と実施した健全な食生活への5つの実践活動が紹介されている。**足立論文**では、臨床心理士の立場から、金沢大学での食育に関する正課授業である「人間関係トレーニング」（グループワーク）が紹介されている。共同調理や共食によるコミュニケーション力向上や心の健康教育をめざしたものである。

Ⅳ. スポーツ選手への支援

スポーツ系学部生や課外活動でスポーツを行う学生も多い。

大澤論文では、スポーツ選手支援の課題として、「スポーツ推薦入学生が抱える課題」、「保健と体育の分離への危惧」「スポーツ = 健康？」と、現実を直視した根幹にかかわる指摘がなされている。**鯉川論文**では、最近増加した女子学生アスリートが陥りやすい医学的障害として3主徴（利用できるエネルギー不足、視床下部性無月経、骨粗鬆症）をとりあげ、「エネルギー不足」に陥らないようにするヘルスサポートが重要と述べている。両論文から、スポーツの競技成績などが重要視されて心と体の健康障害を生じることがあること、また、組織としてこのような学生を支える環境が必要であることが読みとれる。

Ⅴ. メンタルヘルス（健康診断に含めるメンタルヘルスチェック）

悩みを抱えながら相談にこない学生、リスクを有する学生への対応も課題である。**山田論文**では、心理的支援ニーズを有する学生の掘り起しのための全学部生対象のスクリーニング調査（こころの健康調査）、そして、ハイリスク学生に相談室から手をさしのべるアウトリーチ型支援が、紹介されている。**土本論文**では、新入生が呼びだしに感じやすいという特徴や、大学生活への早期の不適應を予防するための「新入生呼び出し面接」が紹介されている。これらの論文から、スクリーニングの質問項目に十分な検討を加えること、そして、連絡や面接など学生への働きかけには種々な点での配慮が必要なことがわかる。

一方、**田所論文**では、「心の健康の保持増進」を目的とした一次予防、大学生への「メンタルヘルスリテラシー（自分自身や周囲の人々の心の健康を保持増進させることができる態度や能力）教育」への注力が、大学生のメンタルヘルス対策として、とりわけ有用であると提言されている。

VI. LGBT

LGBTの学生に、大学はどのような支援が必要だろうか。武田論文では、大学内に多様性を尊重する風土を根付かせるべく、人権教育研究室が実施してきた多様な啓発活動（関学レインボーウィーク）、当事者・非当事者へのWEB調査、そして、当事者が困っていることや要望にあわせた大学各部署へのソーシャルアクション（健康診断、相談機関、就職活動、トイレ・更衣室）が経年的に述べられている。河野美江論文では、「LGBTは性の問題として捉えがちであるが、個人の多様性を十分に理解したうえで、特に、青年期の学生にとっては、アイデンティティの問題として理解し向き合うことが重要である」事が指摘され、具体的な支援だけでなく学生や教職員の啓発・教育の実際についても著者の経験を交えて述べられている。河野禎之論文では、筑波大学がダイバーシティ基本理念に沿って策定した「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」につき、その策定過程、内容、運用が詳細に記されており、各大学が支援を考える際の助けになると思われる。これらの論文から、学内の意識の醸成、啓発、トップのコミット、行動指針の必要性、そして当事者視点の重要性がわかる。